

「今月の1枚」



写真1 キンギンナスビ全体

深く切れ込んだ互生（ごせい）の葉が特徴的。下に写っているのは、ハマナタマメの葉。



写真2 キンギンナスビ花

5裂した白い花。花弁はワルナスビより深く裂ける。黄色いのは葯（やく）。



写真3 キンギナスビ未熟果実

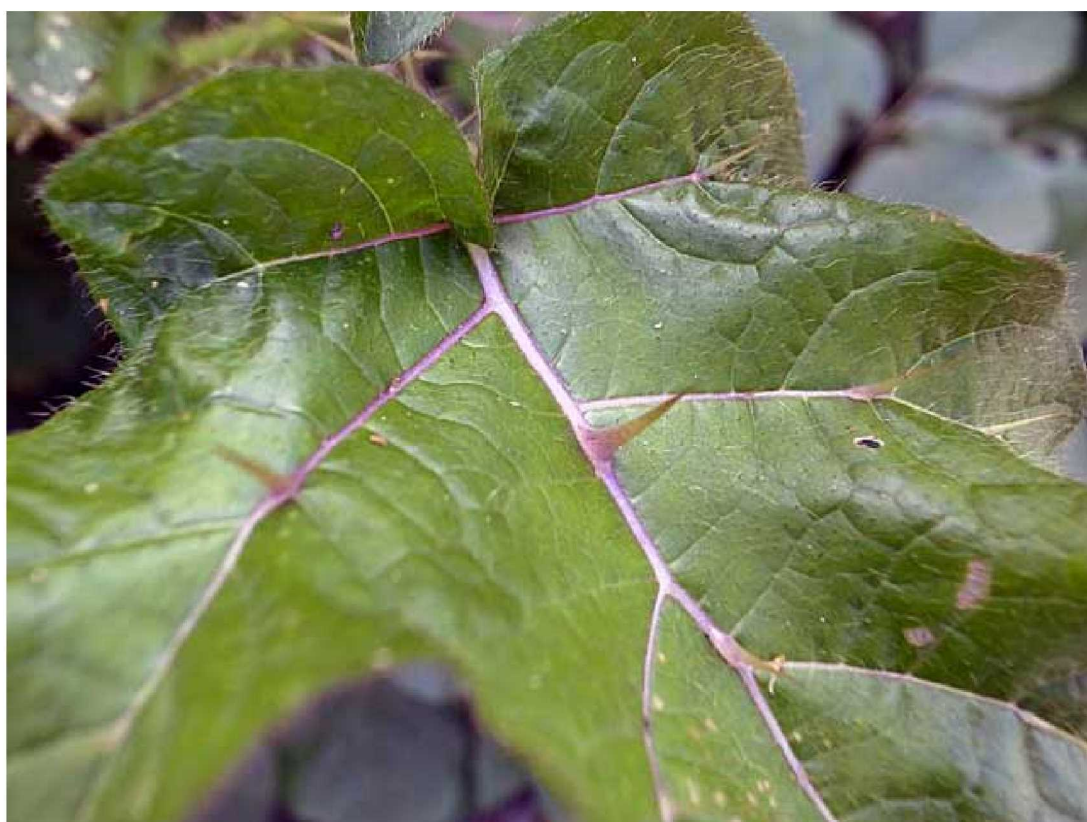


写真4 キンギナスビ葉脈のトゲ

葉の表、主脈や側脈状に大きく鋭いトゲ。剛毛も生える。葉の裏にも同じようなトゲ。

キンギナスビ（別名 ハリニシキナスビ） *Solanum aculeatissimum* （ナス科）

茎にも萼（がく）にもトゲだらけ、しかも未熟な果実の筋模様がおでこの青筋みたい。南米原産の外来種。観賞用・薬用として日本に持ち込まれ、関東以西の暖地に広がっています。直径2、3 cmの果実が熟すと朱色になります。

とにかくトゲだらけです。葉の表裏の葉脈上、茎やつぼみにいたるまで、先端の非常に細い鋭いトゲがついています。写真を撮るのに少し葉を除けるだけで痛い思いをします。

近縁種のワルナスビ (*Solanum carolinense*) は、要注意外来生物に指定されています。本種はそのような指定を受けてはいませんが、野外に積極的に広げるようなことはするべきではありません。

食用とされるナス、ピーマン、トウガラシ、トマト、ジャガイモもナス科です。しかし、野生のナス科の植物はたいてい有毒なので、ご注意ください。

(写真・文：大谷 達也 2014.7.16 高知県室戸市 室戸岬にて撮影)

(No.247 2014.7.18 掲載)